

みんなで語る会報告書

開催日時 平成25年8月19日(月) (19時00分～20時30分)
開催場所 今和泉校区公民館 (今和泉校区)
参加者数 市民…26人
市職員…市長他14人

総計41名

会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 閉会

意見交換内容

【市民】

・今和泉の地域づくりをどうするかということが今和泉自治公民館連絡協議会の大きなテーマである。しかしながら今和泉校区のまちづくりの基本的な計画ができていないため、どういうものを目指して今和泉の地域づくりを進めていいか分からないのが現状である。そういう中で市に置かれては指宿市の総合振興計画とか指宿市協働のまちづくり指針等が作成をされていると伺っている。その中で今和泉校区のまちづくりはどのように位置付けられ取り組んでいるのか教えて欲しい。街づくりは自分たち校区民が主体的に取り組むのが基本とは考えているが、市の取り組みと推進状況を教えてほしい。

・今和泉校区には20の自治公民館があるが、人口・世帯数が多い地域もあれば、過疎化・高齢化に伴い地域づくりが困難な地域もある。そのような中、県内でもいたるところで新しいコミュニティ作りが進められていると新聞記事等で報道されている。今和泉校区が新しいコミュニティ作りを目指すとするれば私たちがどのようにすればいいのか、または市の方で行政としてどのような援助をしてくれるのか伺いたい。

・今和泉での喫緊の課題として高齢者への支援策をどうするかがある。高齢化がだいぶ進んでおり、高齢者の皆さんに安全安心な生活をしていただくために地域としてどのように支援ができるのか大きな課題である。その中でも老人クラブが無いところもあり、高齢者の方がふれあう場がないということで自公連としても高齢者に対する事業についても苦労している。市としては高齢者団体等の育成指導はどのようにしているのか、市内全域のことでなく今和泉校区の高齢者クラブをどう育てていくのか、または私たちが地域でできることは何なのか教えてほしい。

・災害時の安心安全の確保が今いろいろなところで話題になっている。今和泉校区では岩本と瀬崎地区が海岸に面しているが、もし大きな地震とか災害が起きた場合に高齢者等に対する対応を誰がどう係わっていくのか、どこに避難所があるのか、校区の自公連として地域に働き掛けていかなければならないと考えているのでアドバイスをいただきたい。警察からは8月28日に避難訓練をするというチラシをもらっているが、今和泉校区を対象とした避難訓練を市の方で開催する考えはないか。また、先般設置された防災無線が役に立っており、ありがたいと思っている。防災無線の設置を行う時の説明会で日常使っているエリアトークから繋げないかとの質問があったが、繋げるようになったかどうか教えてほしい。

<総務部長>

・まず災害時の避難所のことについてお答えしたい。市では防災マップを作成し市民の皆さんのお手元に配布させていただいている。今和泉校区については、例えば校区公民館が第1次の避難所ということで、台風や大雨のときにはここに避難できるという形で考えている。津波に関しては避難

所という考え方ではなく、津波が来るといふ警報や情報が入ったら即座に高い方向に避難していただくことになる。岩本であれば県道で言うと新西方方面に逃げていただく、あるいは畑干地域や十石の方を目指して逃げていただくことになるが、それぞれのご家庭の状況に応じて避難していただきたい。瀬崎地区については議会でも質問をいただいているが、ほとんど海拔はない状況にあり、理論的には標高8mある道の駅彩花菜館でも最高5mが想定される南海トラフ地震の津波には耐えられるように思われるが、海に面しており津波の高さも地形などにより高くなることも想定されるため小牧集落に向って逃げていただくのが良いと思っている。小牧の営農センターは標高が56mぐらいある。小牧集落への避難経路は道の駅からの道路と集落の中央からの道路があるが、南海トラフでの第1波の津波は70～80分、第2波の高い津波は100分を越えた時間で来るだろうと想定されているので、特に津波に関してはそのような対策をしていただきたい。大雨等の避難所については今和泉校区公民館を指定しているが、瀬崎の公民館は背後地に高台があるため避難所として指定していないので、避難される場合は今和泉校区公民館や小牧営農センターに避難していただきたい。道の駅については今年の4月から緊急の避難所として利用できることとなっている。

・防災無線の件でエリアトークとの連結について、基本的には集落のお知らせなどを防災無線で流すことはできないこととなっている。いわゆる緊急の災害等に対する施設であるため、そのような場合に限って放送することになる。もし、エリアトークのある公民館の施設内にスピーカーが設置されていれば、そのスピーカーだけを個別に使用して館長さんが緊急のお知らせをすることはできる。また、スピーカーが公民館の施設内にあるエリアトークに近ければ、公民館の中で話せるような仕組みができるので状況によって市の方でも取り組んでいる。

・今年、市の方が今和泉校区で避難訓練を実施する予定にはなっていないが、集落や自主防災組織で避難訓練等を実施する時には市の危機管理課と打合せをさせていただき消防団や消防署とも一緒になって取り組む形が一般的であり、市内のいろいろな地域で取り組んでいただいている。それぞれの地域の地理的状況や隣近所の状況を把握した訓練が大切である、ぜひ市の方に相談していただきたい。弱者の方の避難については市としても大きな計画は作っているが、現実的には、実際災害等が発生した時には身近にいる方々の活動というのが基本になってくる。自分の命を守ることも当然であり、自分の家族や隣近所の高齢者の方などにも手を差し伸べて協力していただくのが理想だと思う。いろいろな考え方があると思うが、近隣の方々が日頃からコミュニケーションを大切にさせていただいて緊急の場合にはお互いに助け合うというのが基本になると思う。

<市民生活部長>

・今和泉校区の街づくり計画の策定状況としては、市の総合振興計画の校区振興編以外に今和泉校区に特化した計画を策定していない。しかしながら、協働のまちづくり指針においては地域内分権化を進めるための地域コミュニティ計画の必要性や重要性が謳われており、市としては、今年度、新たに共生協働支援センターを設置し、単位自治会の代表者を中心にした新たなコミュニティ組織作りの取り組みを開始している。

・校区を対象とした推進体制・推進状況については具体的に今和泉校区を対象とした推進体制を構築している状況にはないが、本年度から新たなコミュニティ組織作りや地域コミュニティ計画策定支援を進めていくための準備として、庁内の共生協働推進体制を抜本的に見直したところである。校区民と行政が協働でつくる街づくりをどのように進めたらよいかとのことで、今和泉校区に限ったことではないが、まずは地域住民や市民全体の意識高揚が不可欠である。そのため現在のコミュニティの核となっている単位自治会のリーダーの皆さんと連携しながら、新たなコミュニティ組織作りの研究や必要性についての意識醸成に取り組まなければならないと考えている。

・今和泉の街づくりに対する行政の支援については、共生協働支援センターにおいて市民の皆さんが活動しやすい環境作りを推進しており、ご指摘の協働のまちづくり指針の具現化や市全体の意識醸成の取り組みを行っている。具体的には市民が活動する際の保険、市公用車や物品の貸し出しなどの事業を行っている。そして、センターを拠点としてそれぞれの地域にとって必要とされる支援の仕組みや具体的な内容について検討していきたい。

<健康福祉部長>

・老人クラブの育成について、具体的に今和泉校区の方に出向いて老人クラブの方々を集めてということではできていない。指宿市には老人クラブが77ある。指宿に50、山川で16、開聞で11とな

っている。平成 22 年には 74 であったが、老人クラブの総会で地域における老人クラブの活動の重要性をお願いしたり、休止している老人クラブに対してぜひ活動を再開していただくようお願いしてきており、本年度現在で 77 の老人クラブが活動しているところである。今和泉校区の方で休止している老人クラブがあれば、ぜひ再開に向けて市も協力していきたい。

<市長>

・自治公民館活動が難しくなった。5 年後、10 年後、地域の子供たちはいるのか、そこで団体活動はできるのか、そうした場合に今後の地域をどう変えていくのかという視点での一つの質問。そして、集落活動ができないとなったら今和泉校区に 20 ある公民館をどのような形で存続させるのかという質問であると思う。これは今和泉校区だけということだけでなく、地域の再編も必要となる時代がおそらく来るだろう。地域活動ができないとなったらコミュニティが問われるわけであり、どうしたらいいのかということとなる。弱者や高齢者は山の方に避難したくてもできないかもしれない。そうならないために市として、または地域としてどうすべきか、これも考えていかなければならないと思っている。災害時のエリアトーク、防災無線、これも住民が安心安全に暮らせるために使えるような工夫ができないかということだと思う。今後、検討していきたい。

【市民】

・安心安全については待ったなしである。避難経路については総務部長さんから詳細にわたって指導していただいたので、それぞれの自治公民館の方で地域の皆さん方に周知徹底を図っていただきたい。一番心配しているのは、避難した先でずぶ濡れになって避難してくる人を地域でどうサポートするのか、テントを張って机椅子を並べて休んでもらう、そうゆうところも含めて取り組んでいかなければならないと思う。そのことについては避難訓練等の計画もして、市の指導もいただきながら取り組んでいきたい。

【市民】

・今和泉校区も高齢化が進み年々人口が減っている。以前は今和泉小学校も 120～130 人の生徒がいたと思うが現在は 102 人、PTA 戸数は 67 となっている。何とか活性化しなければならないと考えており、市からもお知恵を借りたいと思っている。以前話が出ていたとおもうが、篤姫駐車場から隼人松原の間に埋め立てをして市営住宅ができるとのことであった。市営住宅でもできれば人も入ってくれるのではないかと。我々も貸家について取り組んだが、高齢になり病院で亡くなった場合や県外の子供のところに転出した場合などたくさんの空き家があるが、いざ貸家にしようとしても残った家にはたくさんの荷物が入っていて貸すことができない現状にある。住宅の問題も課題になると思う。

・今和泉駅の裏に共同名義で名義が変わらないということで、ものすごく広い土地が遊んでいるところがある。指宿市の方で借り上げでもして、健康づくりでもできるような公園でも計画できないかと思う。また、そのことに対して我々はどういうことをしたら良いのか教えて欲しい。

・隼人松原の方に砂が入り海岸線も景観が奇麗になった。篤姫の銅像も立ち良くなっている。現在、指宿市に海水浴場がないが、マリンスポーツなど含め海水浴場ができればと思うが良い考えはないか伺いたい。

<市長>

・人口減の中で、この今和泉校区をどうするのか住宅問題を含めて、今和泉小をどうするのかということにも繋がることである。海水浴場については他の校区でも話が出ており、指宿市は観光地としても子供たちが海で泳げないということも含めて、ぜひやらなければならないと考えている。場所の選定を含めて皆さんの意見を参考にして検討したい。

<建設部長>

・今和泉漁港の埋め立てのとき背後地に市営住宅の建設計画があったところである。現在市の管理している市営住宅は 791 戸あり、市営住宅の管理方針としては予防保全的な維持管理及び耐久性向上等により長期的な維持管理費を軽減する。外壁改修など長寿命化のための改善事業の実施。台所・トイレなどの水廻り設備の改善による住環境の改善。それからバリアフリー化の推進である。したがって、今、岩本に 1 団地があるが、今年度浄化槽の設置工事を行うこととしている。これらの市営住宅のうち耐用年数が過ぎて需要が見込めかつ高層化などの必要性・可能性が高い住宅につい

ては立替をしていく方針である。改めていうと、新規に市営住宅を作ることは今のところ考えていない。

<産業振興部長>

・海水浴場についてお尋ねがあった。今和泉校区の皆様には、今和泉おもてなし隊や篤姫観光ガイドなど日頃から自分たちの地域は自分たちで盛り上げるという気運の醸成、そして精力的な活動を展開していただいていることに感謝申し上げたい。観光地である指宿市は大きな川こそないが、海や湖、山など豊かな自然が揃っている。中でも海岸線は今和泉の瀬崎から開聞の物袋海岸まで 50 数 km の延長がある。市では魚見の田良浜のところにサンビーチ指宿という形で海水浴場が開設されていたが、利用者の減少や砂の流失等により岩礁が出てガをするなど危険性があることから平成 18 年で閉鎖された。今和泉も錦江湾から桜島を臨むきれいな海水浴場・キャンプ場として賑わっていた。しかし、砂の流失や利用者の減少により昭和 58 年で閉鎖されている。隼人松原の海岸については、篤姫の放映に合わせて県の方で昔の砂浜をイメージして砂を入れて再生をいただいた。海水浴場については水質がきれいなこと、トイレ・更衣施設・監視所・駐車場などの整備が必要となる。今和泉の場合は沖合にテトラポットがあり、陸地から死角ができることが少し心配される。あと、干潮時には水深が浅くなってテトラポットの沖の方でないと泳げない可能性がある。水質についてはだいぶ改善してきているがバラつきがあり、不適ではないがなんとか海水浴ができるという状況であるなど海水浴場化についてはいくつか課題があるのではと考えている。いずれにしても、豊かな海を持つ指宿市としては夏の観光の目玉として重要なものと考えており、何とか市内に海水浴場を整備できないか検討しているところである。

<市長>

・海水浴場は必要であり、どこかに造りたいと思っている。空き家対策も大きな問題である。貸してもらえれば地域のお年寄りが集える場とか作ったりできると思うが、なかなか空いている家が無い状況にある。もうひとつは学校の問題である。67 戸 102 人の生徒が、もし二桁になって 50 人 60 人になったときに保護者や子供たちの気持ちはどうなのか、地域活性化のためには学校をどうしても残してもらいたいというのは地域の希望であると思う。住宅を造ったとして、そこに子育ての家庭が入り、今和泉で生活をしてきて今和泉小を盛り上げようということになれば非常にありがたい。市内の他の地域でも、その地域に親の家はあるのに丹波小や柳田小の近くに家を子供たちは作ろうとする。親は地元に住んでほしいのに肝心の子供たちはそうではない。そういうところをどうしていくのかということ地域でも考えて欲しい。今和泉小学校は学力をはじめいろいろな面で素晴らしい学校である。地域の方や学校の先生方の努力の賜物だと思う。こういう問題については、館長さん方を含めて具体的な検討の場を作りたい。

<教育長>

・指宿市内でも他の自治体でも、小さい学校では家族ともども大きい学校のある地域に出て行ってしまふ。家族はそこに住んでいて、子供だけが通えるという方法も考えなければならない、そうすると家族はその地域に残るのではないか。これから学校をどうしていくのかということ地域の方を含めて話し合いをしていきたいと思っている。学力の件では平成 25 年 1 月に平成 24 年度の基礎基本定着度の調査があったが、今和泉小は市内で 1 番であった。地域のいろいろな支えがあつての教育活動がなされているのだろうと思った。

<今和泉小学校長>

・子供の数が減っていくというのは、これから先本当に心配である。来年までは 100 人台を維持しそうだが、再来年度 27 年度になると 100 人を切るというような数値が出ている。働く場所があり子供を持つ人が住めるようになるのが良いと思う。市の方では、まるごと博物館とかも進めており今和泉校区にはそういうものがたくさんあり、そういうものを利用できないかと思う。他にも今和泉は農業も盛んで漁協もある、朝市等を開催するなどして人が集まり、そこに働く場所ができれば自然と人が集まって子供も増えていくのではと考えたりもしている。先ほど町づくりについては市の方でも考えているとの事だったので、何とか今和泉に子供が増えるように力を合わせていけたらと思っている。

<総務部長>

・豊玉姫神社一帯の活用については、市の総合振興計画の中でも親水公園というような表現で出て

いる。これまで一定の検討はしているが市の方で具体的に整備をするということは現状ではできていないところである。その一帯には湧水や排水路もあり、それらについては市の農政部や建設部の方で少しずつではあるが整備をしてきており、今後も検討していく予定である。また、健康作りのためということで話があったが、健康のまちづくりの関係で地域環境整備事業という事業に取り組んでいる。この事業は集落及び区において自主的な健康づくりやコミュニケーション活動のさらなる活性化を図るために、積極的に健康づくりを行う集落や区が実施する地域運動場の整備であったり地域ウォーキングコースの整備等の環境整備事業に対して補助金をするものである。できれば集落等でそういう事業に取り組み、土地所有者の方にご理解をいただいてポケットパーク的に借りることができて、1集落で地域運動場整備と地域ウォーキング整備に取り組むとそれぞれ30万円ずつの60万円が補助金としてでる。そういう形で考えていただければ、より地域が主体となって、より現実的な整備ができると思うのでご検討いただきたい。

【市民】

・災害のときの水の確保が心配である。池田湖から導水管で給水されているが、もし、この導水管が破壊されたときにどういう対策を考えているか。他の災害のときの例としては自衛隊が来て対応するところなど見ているが、市の体制としてはどうか。

<総務部長>

・新西方だけが水が出なくなった場合は、市内の他の地域で水を取水できるところから消防車や民間のタンク車を借りるなどして給水することとなる。また、近隣の鹿児島市や南九州市などと災害の協定を結んでいるので、そういうところにも協力をいただいて水を運んでくることとしている。それと今和泉には井戸を持っている方も多いので、緊急的には井戸も利用できるのではないかと考えている。

【市民】

・ゴミを焼却場に持っていくと、1kg・2kgの少量でも500円取られる。国分では30kgまでは無料で30kgを越える場合は10kg毎に80円となっている。お金を取ることでポイ捨ての原因になることも考えられるので、もう一回みんなで討論して考えてみてもらいたい。

<市長>

・伺った意見については、環境に関する審議会もあるので参考の資料、または意見があったことを出したいと思う。

【市民】

・瀬崎の国道は海水を越波するため車が蛇行して走ることがある。先般、若干の工事はしてもらったが、漁港であるため国の対応がどうしても後手になっている。市や県にもお願いしているが、平成26年度の対応はどうなっているか、できるだけ早く対応してほしい。

<建設部長>

・瀬崎港は海岸保全区域に指定されており、越波対策のうち国道に関する部分は国道事務所に対応してもらっている。市も国県の方に要望をしているが、海岸保全区域に指定されている300mについては市が対応しなければならないため九州地方整備局に平成26年度の事業要望を提出している。国の予算次第だが、早ければ平成26年度から設計と工事が始まることとなる。

【市民】

・市の今和泉分室が無くなるという話を聞く。車がある方は良いが、車が無く市役所まで行けない方もいる、お集まりの皆さんはどのように考えているか。

・校区に住んでいる市職員の皆さんには、日頃から校区のいろいろな行事に積極的に参加していただき感謝している。今和泉のまちづくりに関しては自公連として取り組むつもりだが、できましたら市役所の皆さんが実情をよく知った立場からまちづくりワーキンググループみたいなものを作ってやろうとしたときに地域の一員としての立場でご協力いただきたい。

【市民】

・今和泉分室だけでなく、農協なども遠くなっているの、ぜひ残してほしい。

<市民生活部長>

・公金の取扱いも両分室で2千万円ほどある。印鑑証明や住民票など出すところであり、今後行政改革の中で検討することとなっている。

【市民】

・岩本でも空き家が増えているが、きちんと管理されている空家や管理されていない空き家など色々あると思うが、市の方でも把握してほしい。

・子供が本当に少なくなった。キューピット役の方もいるが、市の方でもパーティーなど企画して結婚する機会を設けてほしい。また、仲人役の育成もしてほしい。

【市民】

・岩本交差点から海岸の方への道路が良くなると思うので、その先の岩本宮ヶ浜間の道路の崖を早く対策を取ってほしい。